

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会 広報紙 No.37 2021年12月4日発行

10月26日の町長選挙、核ゴミ反対を公約に掲げた越前谷由樹さんは残念ながら敗れました。

みんなの想いを体いっぱい背負って出馬していただいた越前谷さん、心より感謝申し上げます。私たちの活動は続きます。越前谷さんも、引き続き、核ゴミ反対の活動を続けてくださるとのこと、ありがとうございます。

町民の会のメンバーや、支援者の皆さんから、越前谷さんへの感謝、ふるさとへの想いが集まりました。

### 三木 信香（本町在住）

町長選が終わりました。泣き過ぎて目が腫れて、頭が真っ白になりましたが、たくさんの皆さんから応援のメッセージを頂きました。ここでお返事させて下さい。

みんなの想いを体いっぱい背負って出馬を決めて頂いた 越前谷さん。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。70歳とは思えない軽快さ。人への気遣い。腰の低さ。全てにおいて尊敬しかありませんでした。

町民の会の私たちも、個人的に後援会のお手伝いをさせて頂き、色んなお話をさせて頂きました。越前谷さんが町長になったら今より素敵な寿都になりそう！とずっと思ってきました。子どもたちも越前谷さんが大好き。うちの娘は結果を知り泣いていました。

残念な結果となりましたが、越前谷さんを支持してくれた900票は、本当に想いが物凄く詰まっていると思います。静かだった寿都の町民が900人も同じ気持ちなんです!! 私は負けたとは思ってません。むしろ希望が見える数字だと思います。

町民の会の今後は、改めて決めていきますが、30代~70代の町民がひとつになれた会です。まだまだ出来る事はあると思います。

ふる里が心配で帰って来た31歳の吉野卓寿君。越前谷さんの想いを引き継ぎ、頑張ると話してくれました。

少し休んで、また元気に活動して行きます!!

皆さん、引き続き町民の会をよろしく願います。

心配して連絡頂いた皆さま、本当にありがとうございました



### 三木 圭介（本町在住）

寿都に戻って9年、いちど外に出た人間でなければ、分からない寿都の良さがあります。この小さな町には、大きな可能性がたくさんあると思います。町民みなでアイデアを出し、交付金にたよらない町にできると信じています。寿都を想い、立ち上がっていただいた越前谷さん、支えてくれた皆さんには、本当に感謝しかありません。



### 佐藤 ふたみ（黒松内町在住）

私は隣町の黒松内町に住んでいます。子ども達に海や川などで自然体験を提供する仕事をさせて頂いています。

生き物が多様で沢山の美味しい食物を提供してくれている寿都の海、大きな人工構造物が下流から上流にかけて存在しないため、沢山の生物が生息する日本有数の清流・朱太川など、この周辺の豊かな自然に惚れ込み、世界中を旅したあと、この地で一生を過ごそうと移り住んできました。

そんなところにいきなり舞い込んだ、核のゴミ文献調査応募のニュース。本当に衝撃でした。隣町である寿都町といえど、決して他人事ではないです。自然に境界などないので。寿都町に核のゴミが来て、放射性物質が漏れだせば、川や海で子ども達と活動ができなくなることは目に見えています。

目先のお金に踊らされて、ご先祖さま達が守り、受け継いで来てくれた、豊かなこの地の自然を未来永劫手放すのかと、その程度の価値しかないという認識に、大変絶望しました。

自分に何ができるのか、この1年はずっと考え続けてきたように思います。同世代の仲間と何かできることはないかと団体を立ち上げたり、核ゴミについての勉強会を開催したり。

しかし、たびたび、『自分にできることなんて何もないのでは…』という無力感や絶望感に襲われたり、激しい怒りに飲み込まれそうにもなりました。

でも、今はとにかく自分にできることをやっ払いこうと、この周辺の自然の価値を理解してくれる人を一人でも多く増やしていけたらと思っています。

日本全国、世界中を見渡しても、豊かな海、川、森が存在する、この周辺の自然は大変価値があるものだとは私は固く信じています。私達人間が正しくお付き合いをしていけるなら、今後も沢山の恩恵を与えてくれる存在だと思います。

自分にできることをやりつつ、一人でも多くの仲間と繋がっていききたいです。



## 大串 伸吾（歌棄町在住）

核のゴミの交付金を活用した町づくりに賛同することとは、どういったことなのでしょう。『間違った土台の上に、どんな膨大な経営資源を投入しても確実に失敗します。』これは、地域再生に定評のある木下斉氏が著書「まちづくり幻想」の冒頭に述べた言葉です。『単に「ヒト・モノ・カネ・情報」がたくさんあれば良いのではなく、それらを取捨選択し、活用していく上でベースになる「思考の土台」が必要になります。』

どんな多額の交付金をもらったとしても、町づくりの「思考の土台」が「お金があれば地域振興できるに違いない」という中身の無い思想で始まったプロジェクトは確実に失敗します。今の寿都町政はまさにそれを繰り返そうとしています。木下氏の言う「思考の土台」とは何でしょうか。それは町民が分断されたままの町で、しっかり作り上げることが出来るのでしょうか。

分断の解消は、最終処分場建設に向けた調査が止まることでしか始まりません。お金は大事でも振り回されてはいけない。越前谷さんが訴え続けた言葉を引き継ぎ、住民投票後には喜んで抱き合えるような日が来ることを今から思い描きませんか！ あの日、僕を抱きしめてくれた越前谷さんの暖かさを忘れません。ありがとうございました！

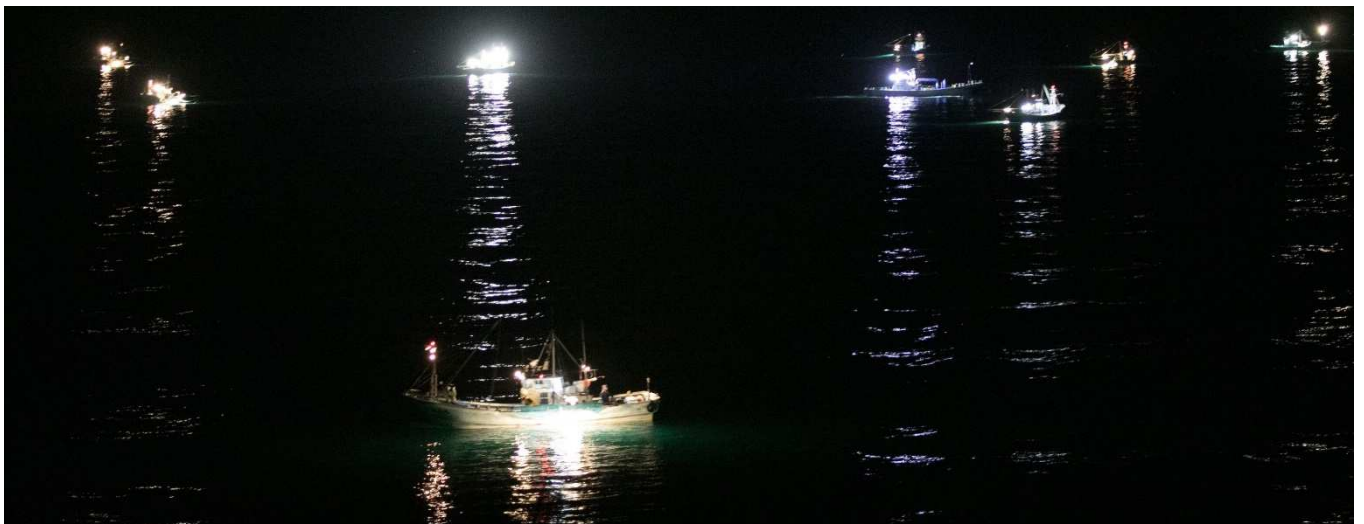


## K（本町在住）

寿都に戻ってきて幾年か経ち、その間の町の変わり方にただただ驚きと戸惑いを感じるばかりです。

この度の町長選挙はひとつの分岐点であり、結果が提示された時、私の驚きと戸惑いはまた少し増して不思議な感情がともったのを覚えています。

これからの寿都の歩む道が険しいものになろうとも、ひとつひとつの気持ちが漁火となってその道を煌々と照らし導いてくれることを願っています。



## 樋谷 和幸（磯谷町在住）

新潟県巻町をご存じでしょうか。日本ではじめて、原発建設の賛否を問う住民投票を行った町です。町長選後の気持ちの整理と、来年には行われるであろう住民投票への向き合い方を探りに、当時、巻町の運動の中心になられた桑原ご夫妻、高島元弁護士、笹口元町長にお会いしてきました。

寿都町長選の結果は、たしかに住民運動の成果と、問題意識を持つ選挙民がいるとの評価をいただきました。とくに、高島さんからは「住民投票条例は彼らが作ったもの」ではあるが、「投票が過半数を越えないと開票しないことにこだわるより、町のことを皆で決めよう。条例はそのためのもの」「投票をすることは賛成派、反対派を越えて町の将来を決める行動」とのご指摘をいただきました。

これからは、私たちの町の将来をどうしていくのか、核ごみの賛否を越えて投票という意思を過半数以上の町民が示せる運動をすることではないか。そんな想いを持って、帰ってきました。

## 匿名（本町在住）

先日、とても素晴らしいお話を聞きました。核ゴミについてでもなく、町づくりについてでもない、本当に基礎の知識として「お金の価値観を、金融教育によってどのように子どもたちに伝えるべきか」ということ。

お金は同じ価値のあるものと交換する。お金の教育に必要なことは「ものやお金を大切にすること」。働いた対価であること、感謝の気持ち、倫理観や価値観を育むことの大切さ。

現在の多様性社会で、お金やものの価値の本質を知ること、なにに夢中になれるか、なにが大切か、お金をたくさんもらうことだけが目的なのか…。

お話は、家族でお金についてたくさん話し合ってください、と締めくくられました。

倫理観や価値観が、今この町で揺らいでいます。大人にもどうしたらいいかわからなかったり、現実を直視できないことがたくさん起きています。この町のためだけではなく、未来の力となる子どもたちのために、イチからもう一度みんなで考えたい。

子どもと一緒に大人も学ばなければいけないと、強く思いました。



## 田村 陽子（蘭越町在住）

隣人からのラブレターです。

美しい海があり、美味しい幸があり、身体温まる温泉があり、優しい人が居る。

大好きな隣町。

そこに住む方々には、自分の町の未来予想図は

自分たちで考え、進む道を選んで進んで欲しいです。

子供たちはどんな大人になりたいのでしょうか。

子供たちにどんな背中を見せましょうか。

私達の町も同じです。

ご縁があって隣町に生きる私は、大好きな寿都町の皆さんが

自分たちで富を生み出し、小さいながらも輝く未来をイメージできています。

